

新しいはじまりを、
さあ、いっしょに。



100
川崎市市制100周年記念事業記録誌
Colors, Future! Actions Record



川崎市市制100周年記念事業記録誌

Colors, Future! Actions Record



新しいはじまりを、さあ、いっしょに。

COLORS
FUTURE!
ACTIONS
KAWASAKI 100th



川崎市市制100周年記念事業・
全国都市緑化かわさきフェア
実行委員会会長

川崎市長 福田紀彦

大正13(1924)年に川崎町と大師町、御幸村の2町1村の合併により人口約5万人の市として誕生した川崎市は、人口155万人を擁する大都市に成長し、多彩な魅力を持つ都市として、今なお成長を続け、令和6(2024)年7月1日に市制100周年という歴史的な節目を迎えました。

この輝かしい歴史的な節目は、本市が誇るべき100年の歴史を振り返り、先人の努力や功績に深く感謝しながら、川崎の発展の礎である、様々な人々や新しい文化をあたたく受け入れ育んできた「多様性」という価値を改めて多くの皆さまと共有し、次の100年へとつなげていく素晴らしい機会となりました。

また、市の発展に寄与された方々への表彰や特別編成されたオーケストラと合唱団による記念演奏を行った「市制100周年記念式典」、市制100周年の象徴的事業として、全国で初となる「秋」・「春」の2期で開催した花と緑の祭典「全国都市緑化かわさきフェア」をはじめとした様々な記念事業を通じて、市民の皆さまと喜びを分かち合うことができたことに心から感謝を申し上げます。

市制100周年を契機に、多くの方々に改めて川崎を「知って、関わって、好きになって」いただけるよう、令和6(2024)年度の1年間を通じて、市民・企業・団体の皆さまとともに市内全域で展開した記念事業は、市のブランドメッセージが表す「多様性を認め合い、つながり合うことで、あたらしい魅力や価値を生み出すことができるまちを目指していく」ことを、まさに体现するものとなりました。いろいろな人が集まる川崎だからこそ、一人ひとりの「色」があかるく、あざやかに重なり合い、様々な主体が、様々な形で主役となる多様で多彩なアクションが次々と生み出されたのだと思います。

この「川崎市市制100周年記念事業記録誌 ～Colors,Future!Actions Record～」では、令和5(2023)年度のプレ事業期間から2か年にわたり市制100周年記念事業として実施されたすべての事業を紹介するとともに、記念事業に関わってくださった方々に、関わりの中で感じたことや次の100年に向けた川崎への思いなどを語っていただきました。ぜひ、手に取ってご覧いただき、市制100周年に関わった一人ひとりの「色」によって、あたらしい川崎が生み出され、希望に満ちた未来への可能性が広がっていることを感じていただければ幸いです。

「多様性」をまちの価値として「可能性」にして発展してきた川崎市。これからも「多様性」をまちの誇りとして、さらにその輪を広げ、「100周年記念事業を契機として生まれた多彩な事業」、「自らまちに関わり、まちを盛り上げる市民・企業・団体等とのつながり」、「川崎を知って、関わって、好きになり、向上したシビックプライド」をレガシーとして取組を推進し、様々な人たちが川崎に「愛着」と「誇り」を持ち、つながりあいながら未来にチャレンジできるまちづくりに挑戦し続けてまいります。

川崎を「知って、関わって、好きになる」市制100周年記念事業の概要 4

市制100周年記念式典・記念表彰受賞者 7

かわさき飛躍祭 13

Colors,Future! Summit 2024 15

みんなの川崎祭 19

ここから未来プロジェクト 21

かわさき脱炭素プロジェクト 22

みどりの共創プロジェクト 23

まんなかフェス2024 24

子どもの力で川崎の未来を変えるプロジェクト 24

未来っていいな★まつり ～夢を集めて川崎100周年～ 25

市制100周年記念事業のレガシー 26

市制100周年実行委員会共同事務局 座談会 27

第41回 全国都市緑化かわさきフェア 29

これからの100年を担う若者たちの取組 31

川崎市主催事業 33

実行委員会参画団体主催事業・パートナー主催事業 35

かわさきスペシャルサポーターのキセキ 2022-2025 37

民間企業出向職員 座談会 39

市制100周年を彩った全記念事業の記録 41

市制100周年記念事業一覧 102

市制100周年の広報・プロモーション 121

記念事業の経過 133

川崎市市制100周年記念事業・全国都市緑化かわさきフェア実行委員会の組織 134

実行委員会幹事メッセージ 135

実行委員会参画団体一覧 137

川崎市市制100周年記念事業・全国都市緑化かわさきフェア 協賛企業・団体 141

事務局長謝辞・事務局職員メッセージ 145

これからはじまる
Colors, Future! Actions
さあ、いっしょに。

100th



2024年、川崎市は市制100周年

川崎を「知って、関わって、好きになる」市制100周年記念事業の概要



1 基本理念

川崎市は、多様なバックグラウンドや価値観、能力を持つ人たちが、共に暮らし、働き、そして互いに認め合い、支え合い、高め合うことで発展してきました。

市制100周年という歴史的な節目に、先人の努力や功績に感謝し、時代とともに変貌してきた川崎市のこれまでのあゆみや歴史・文化を知り、川崎市の発展を支えてきた「多様性」の価値を改めて共有し、市民に「愛着」と「誇り」を持っていただく機会とします。

さらに、将来にわたって、誰もが暮らしやすい笑顔あふれる「最幸のまち」へとつなげていくため、この契機を未来に向けた活力ある「あたらしい川崎」を生み出していく新たなスタートラインとします。

2 基本方針

川崎市ブランドメッセージへの共感を喚起する。

川崎市ブランドメッセージは、川崎市の多彩な魅力を一言で表現し、都市の将来像を示すものとして、平成28(2016)年に策定し、市制100周年を見据えて活用してきました。

市制100周年を「あたらしい川崎」を生み出していく新たなスタートラインとするために、ブランドメッセージに込められた「多様性を認め合い、つながり合うことで、新しい魅力や価値を生み出すことができるまちを目指していく」という意味を、「多様性」を可能性にして発展してきた川崎市の歴史を振り返りながら、市民の共感を喚起し、改めて共有します。

新たな100年に向けて、文化として根付くムーブメントを起こす。

川崎市が誇る魅力や価値などを、市制100周年を契機にさらに発展させるため、さまざまな分野において、市民、企業、団体等と協働・共創して多様なアクションを進めて全市的なムーブメント(行動)を起こし、将来のよりよい文化にしていきます。

特に「みどり」分野については、これまでの歴史や強み等を振り返りながら市民の皆さんと一緒に考えて行動し、新たな文化を醸成するきっかけとして、令和6(2024)年度に「全国都市緑化かわさきフェア」を開催し、「川崎らしいみどり」を発信します。

市民一人ひとりのシビックプライドを醸成する。

川崎市が市民にとって安心で居心地のよい場所となるよう、記念事業を川崎市が誇る魅力や価値などに触れて再認識する機会とし、市民に参加や関わりを促すことで、シビックプライド(川崎への愛着と誇り)の醸成を図ります。

3 コンセプト

川崎市ブランドメッセージに込められた意味が、「あたらしい川崎」を生み出していくという市制 100 周年記念事業を体現することから、記念事業のコンセプトを「Colors, Future! いろいろって、未来。」と決めました。コンセプトの実行による未来の可能性の場づくりをしていくことで、さまざまな活動や価値が生まれ、この先100年に向けた川崎市の成長の機会にします。

Colors, Future!

いろいろって、未来。

多様性は、あたたかさ。多様性は、可能性。
川崎は、1色ではありません。
あかるく、あざやかに。重なり合う。
明日は、何色の川崎と出会う。
次の100年へ向けて。
あたらしい川崎を生み出していこう。



川崎市

4 記念事業ロゴマーク

記念事業のコンセプトを実行していくことを「Colors, Future! Actions」と名付け、さまざまな記念事業を生み出します。

ロゴマークを制作し、記念事業のシンボルとして広くPRするとともに、ステートメントを設定して多様で多彩な「Action」を記念事業で生み出していくための想いを共有します。

※企業・団体等のロゴマーク申請件数:299件

COLORS
FUTURE!
ACTIONS
KAWASAKI 100th



Colors, Future!
ACTIONS
KAWASAKI 100th

川崎のどこが好きですか。

お気に入りの場所。ほっとするまちの仲間。
ひとりひとりの“好き”をつなぎ、かけ合わせて、
いっしょに川崎を育てていこう。

このまちに暮らし、このまちを発展させてきた
たくさんの人たちに感謝を抱きながら、
あたらしい川崎を未来の人たちへとつないでいこう。

いろいろな人たちが集まる川崎だからこそ、
多様で多彩なアクションを、つぎつぎと。

100年目の川崎市ではじまる Colors, Future! Actions。
“好き”があふれるまちづくりを、さあいっしょに。

5 川崎市市制100周年記念事業・全国都市緑化かわさきフェア実行委員会

市制100周年の歴史的な節目に、さまざまな企業、団体等、約400団体で構成する「川崎市市制100周年記念事業・全国都市緑化かわさきフェア実行委員会」を設立。市制100周年の象徴的な事業として実施した「全国都市緑化かわさきフェア」と合同の実行委員会により、オール川崎市での取組を一体的に展開しました。

6 記念事業実施期間

記念事業は、市制100周年の市制記念日を含む年度である令和6(2024)年4月1日から、令和7(2025)年3月31日にかけて実施しました。

令和5(2023)年度は、準備期間として、「プレ事業」を実施しました。

2024年4月1日～2025年3月31日

7 15のアクションテーマ

川崎に関わるさまざまな主体が、「より川崎がよくなる」「より川崎を好きになる」ことにつながる取組として、自分ならどんなActionができそうか企画・検討しやすくするための“目印”を15個の「Actionテーマ」として設定しました。



ACTION 01
グリーン・コミュニティ



ACTION 02
ブランディング



ACTION 03
ビジネス・インキュベーション



ACTION 04
ネクストジェネレーション



ACTION 05
名物フード



ACTION 06
チアアップ



ACTION 07
ナイトタイムエコノミー



ACTION 08
サステナブル



ACTION 09
イベント・祭



ACTION 10
Well-being



ACTION 11
グローバル



ACTION 12
アート&ミュージック



ACTION 13
スポーツ



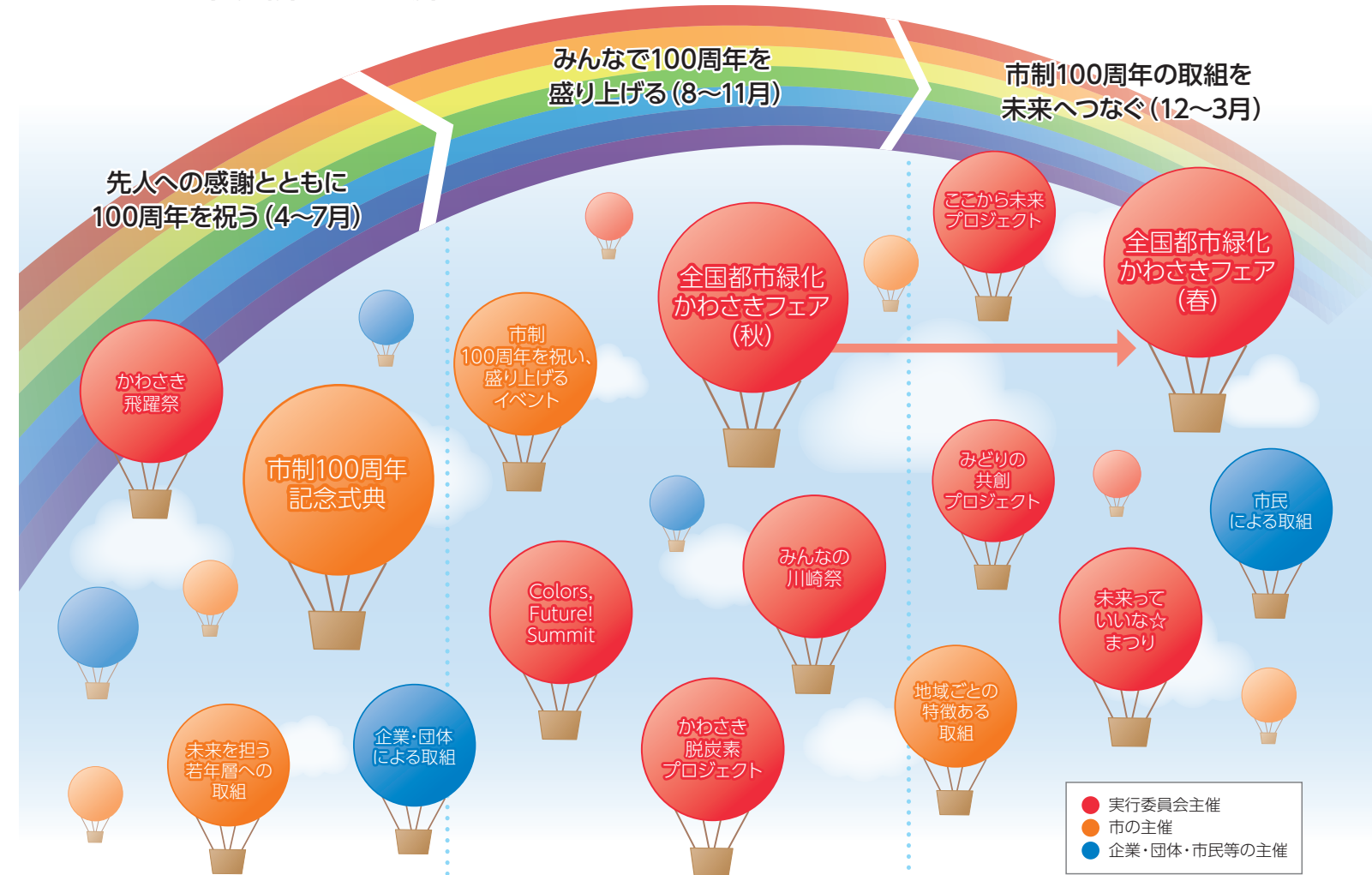
ACTION 14
学び



ACTION 15
安全・安心

8 各主体による記念事業の展開

記念事業を先導した「実行委員会主催事業」をはじめとして、実行委員会に参画する団体や記念事業の趣旨に賛同する多くの方々とともに、改めて川崎を「知って、関わって、好きになる」多様で多彩な取組を、記念事業期間を通じて展開しました。





市制100周年記念式典

日時:2024年7月1日【月】14時~16時
会場:ミューザ川崎シンフォニーホール 出席者数:約1,900名

100周年の市制記念日をむかえた2024年7月1日に開催した「市制100周年記念式典」では、本市と関わりの深い国内外の友好都市の方や、御招待した市民の皆さまなど、多くの方々と一緒に、市制100周年を迎えた喜びを分かち合いました。市の発展に寄与された228組の方を表彰するとともに、プロアマ混成のオーケストラと、多世代で構成された合唱団がコラボレーションした約520名による記念演奏を行うなど、川崎市の発展の礎である多様性を体現した式典となりました。

- 記念式典 式次第 ——
- 開式
オープニング/パイプオルガン演奏
演奏:松居 直美
 - 市制100周年記念映像の上映
 - 式辞:川崎市長 福田 紀彦
 - 来賓祝辞:川崎市議会議長 青木 功雄
 - 市制100周年記念表彰式
国歌・市歌斉唱
伴奏:大木 麻理 指揮:中村 拓紀
斉唱:桐光学園中学高等学校合唱部
 - 市政功労賞等贈呈
 - 市制100周年記念オーケストラ・合唱団による記念演奏
 - 記念写真撮影
 - 閉式



記念表彰受賞者の声

記念表彰では、多分野において長きにわたり、特に顕著な功績があった斎藤文夫氏、藤嶋昭氏、山田長満氏に特別市政功労賞を贈呈したほか、市政功労賞、未来賞、Colors,Future!賞の各賞の表彰を行いました。

受賞者の中から、あたらしい川崎を生み出していくことが期待される小・中・高校生を対象とした「Colors,Future!賞」を受賞した「まちびらき隊」に、表彰を受けた思いなどをお聞きました。

SDGsの担い手!「川崎から世界へこどものSDGs活動を発信したい」

川崎駅東口の繁華街にある東田公園を活動拠点に、公園清掃や緑化活動などに取り組んでいる「まちびらき隊」は、中学生から大学生までの約35人が隊長として活動・運営しています。市制100周年記念式典では「Colors, Future!賞」を受賞し、「非常に光栄。これからも小さな子と学生による川崎のより良いまちづくりのために頑張りたい」と意気込みを新たにしています。

2024年度には、川崎区役所と協働した「子どもまちびらき大作戦」において、区内の小・中学生を対象に「まちがもっと良くなる」ためのアイデアを募集し、隊長のみならず、小さな子どもたちの発案したアイデアをもとに多くのイベントを実施してきました。アイデアの多くはSDGsに関連しており、川崎でSDGs活動を行っている企業を訪問する「SDGsツアー」や、SDGsを楽しみながら意識できる「SDGs縁日」を開催しました。クリスマスには、子ども向け

に楽しく節電できるキャンドル作りイベント「節電作戦」を行い、隊員(小学生)が講師を務めることで、人に教える体験を通じて自己成長にもつなげました。2025年度は、「まちびらき通信」を小学校などに配布し、自分の提案が実現し、川崎は子どもの提案が叶うまちであることをアピールする予定です。また、市制100周年記念事業の象徴的な取組である全国都市緑化かわさきフェアに向けて、コア会場の富士見公園周辺にパンジーやビオラをみんなで植えて、まちなかを花で彩りました。

「Colors,Future!賞」を受賞した「まちびらき隊」が目指す「あたらしい川崎」の創出に向けた夢は、「川崎から世界へ子どものSDGs活動を発信すること」です。その夢の実現に向けて、これからも誰もが住みやすい社会を目指しSDGs達成の担い手として活動を続けていくそうです。



市制100周年記念品「オリジナルペンホルダー」に込めた思い

高津工友会青年部「タカツクラフト」さん

記念式典の来場者には、市制100周年記念品のオリジナルペンホルダーが配付されました。ペンホルダーの中央には約100年にわたり川崎臨海部で鉄づくりを続けてきたJFEスチール株式会社(旧日本鋼管)の溶鉱炉で造られた最後の鉄が埋め込まれています。記念品を企画・製作した高津工友会青年部「タカツクラフト」に、製作過程や記念品に込めた思いを伺いました。

川崎のものづくり企業の技術を結集!「オリジナルペンホルダー」

「タカツクラフト」は、高津区の町工場を中心に、各企業の技術を結集させ、1社では解決が難しい事業へ対応し、小規模なものづくり企業の販路拡大を目的に新設されたプラットフォームです。市内のキムチ製造販売業者の特製キムチボットを手掛けた実績などから、市制100周年記念式典の記念品の企画・製作の相談がありました。

コンセプトに掲げられたのは「川崎らしさ」「一つのことを皆で分かち合う」「この場でしか手に入らないもの」。JFEスチール株式会社東日本製鉄所京浜地区に御協力いただき、2023年9月に高炉を休止した際の最終稼働日に製造した鉄の使用が決まりました。市の担当者と何回も打合せを行い、限りある鉄を最大限活用できるように小さなプレート状に切り出し、錆びないようにするため樹脂に埋め込むことが最適と判断。その上で実用性も兼ね備えたものとしてペンホルダーを製作することに決まりました。

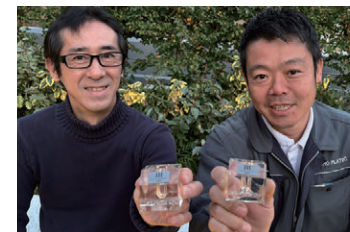
合成樹脂のレジンに型に流し込む工程には、子育て中のママ集団「川崎区盛り上げ隊!」が協力。展示販売会で知り合った同隊は、その時、金属のかけらをレジンに入れたアクセサリを製作・販売していました。タカツクラフトメンバーの小川清孝さんによると「力になってもらいたい」と相談したのは「納品まで半年を切っていた2024年1、2月頃だった」とのこと。

試作を始めた当初は、レジンの中に気泡が入ってしまったり、レジンを通した型に表面に微細な凹凸があったことから表面がくすんでしまうなど、製品としての品質が低かったそうです。極限までツルツルに磨いたマスターから型を作成するなどの改良を重ね、本体は透き通った綺麗なものになりましたが、気泡はなかなか消えず四苦八苦。試行錯誤の結果、最終的には「真空脱泡装置」を用いて空気を抜くなどによりほとんど気泡が目立たないとても美しいものになりました。埋め込む金属プレートには、市のブランドメッセージをレーザーで緻密に刻印。こうして試作品が完成しました。その後、量産にあたっては株式会社共和工業(川崎区)の協力で作業場所を確保することができ、本当にいろいろな方々の協力により、ペンホルダーが完成しました。

タカツクラフトは2024年12月26日に組織化し合同会社となり、メンバーの渡邊敬太さんが社長に就任しました。メンバーの三枝宏徳さんは「タカツクラフトを通じて川崎を仕事でいっぱいになりたい」と強調。小川さんは「一般消費者に商品を提供するBtoCの開発を手掛け、全国区の知名度となるような大きなプロジェクトにも取り掛かりたい」と夢を描いています。タカツクラフトは、これからの100年も「ものづくりのまち川崎」の価値をさらに高める取組を進めていくそうです。



「100周年記念ペンホルダー」



タカツクラフトの小川清孝さん(左)と三枝宏徳さん(右)



一つずつ手づくりで製作



市民が奏でるハーモニー 川崎市の未来へ

市制100周年記念オーケストラ・合唱団による記念演奏



【座談会参加者(左から)】

公益財団法人東京交響楽団 桐原 美砂さん
宮前フィルハーモニー交響楽団 荒井 麻梨子さん
昭和音楽大学 岡野 皓太さん
洗足学園音楽大学 及川 優羽さん
川崎市合唱連盟事務局長 中山 寛隆さん

桐原さんと中山さんは企画担当として参加されたんですね

桐原さん：東京交響楽団の企画制作担当として市の方々の要望などを聞きながら、どうすればより良い演奏を実現できるかなど全体構成の提案や、限られた時間の中でのスケジュール管理などを担当しました。

中山さん：川崎市合唱連盟の事務局長を務めていますが、市からの依頼を受けて初期の段階から全体構成や選曲に携わせてもらったほか、合唱団の募集～練習までをとりまとめました。桐原さんとは企画段階のときからずっとメールで連絡を取り合って、準備を進めてきました。当日は裏方としてかけずり回りながら、合唱団の一員としても参加しました。

練習はいつから始めたのですか

中山さん：本番約2か月前の4月末から月に1、2回の練習を重ねました。毎回300人以上のメンバーが参加し、楽譜配りや席の案内など合唱連盟理事もフル稼働で動いてくれました。参加者の年齢は小学1年生から上は80歳代までと幅広く、合唱経験も初めての方から、歌い慣れている方までさまざまでした。それこそ「好きです かわさき 愛の街」は、「空で歌えます」という人も結構いましたね。



記念式典での演奏のために特別編成された「市制100周年記念オーケストラ・合唱団」。川崎市のフランチャイズオーケストラ東京交響楽団を中心に、市内の音楽大学である洗足学園音楽大学と昭和音楽大学、そして市内アマチュアオーケストラで編成された約120名のオーケストラと、川崎市合唱連盟の皆さんや市民公募メンバーで編成し、本番まで練習を重ねてきた約400名の合唱団の歌声のハーモニーがミュゼ川崎シンフォニーホールに響き渡りました。

川崎の「多様性」が「可能性」であることを体現するシーンを生み出した関係者の皆さんに記念演奏を振り返ってもらいました。

記念演奏曲目

(バーンズ 作曲/ 和田薫 編曲) マーチ・かわさきのねいろ
(菅野由弘 作詞・作曲) 世界中から こんにちは そして ありがとう
(ラヴェル 作曲/芸術村あすなろコーラス 加筆) ポレロ
(肥後義子 作詞/石本美由起 補作/山本直純 作曲/山本純ノ介 編曲) 好きです かわさき 愛の街
指揮：秋山 和慶(ミュゼ川崎シンフォニーホール チーフ・ホールアドバイザー)
ピアノ：小川 典子(ミュゼ川崎シンフォニーホール ホールアドバイザー)
市制100周年記念オーケストラ・合唱団(約520人)

皆さんが記念演奏に参加されたきっかけは

荒井さん：所属する市民オーケストラの団長に声をかけてもらいました。生まれも育ちも川崎市民なので、100周年のお祝いに参加したいと思い応募しました。

岡野さん：学校でオーケストラ募集のお知らせがあり、出演を希望しました。大学4年生の頃から東京交響楽団の近藤千花子先生に師事しているのですが、ずっと憧れの先生で大ファン。その近藤先生の隣で吹けることも嬉しくて、ワクワクしていました。

及川さん：岡野さんと同じで、学校から募集のお知らせがあり参加することになりました。実は、記念演奏をきっかけに市制100周年ということを知りました。出身は山形県ですが、川崎市に住むことになり、いろいろな人と関わりやすくなりが増えて川崎が好きになっていきました。その川崎市が100周年ということを知ったので、ぜひ参加させていただきたいと思いました。

初めて合わせた時の手応えはいかがでしたか

中山さん：「好きです かわさき 愛の街」は、よく知っている歌なので最初からとても良かったのですが、やっぱり「ポレロ」はメロディを知っていても皆さん歌ったことがなくて、「どう歌えばいいんだろう」と戸惑っている方もいました。「世界中から こんにちは そして ありがとう」は、掛け声や音程、リズムなどが本当に難しい曲でした。

桐原さん：皆さん苦労されていましたよね。言葉も日本語だけじゃないので、知らない言葉をカタカナで見て、リズムに合わせて歌うのは、結構ハードルが高いことだと思います。

中山さん：「こんにちは、ハロー♪」までは皆さんできるんですけど、そこから先は「これは何て読むんだろう？」というところからのスタートでしたね。

オーケストラはいかがでしたか

桐原さん：市民参加の皆さんはお仕事や学校、所属するオーケストラの練習もあるので、このためのリハーサルは一度だけ。合同練習はとにかく人数が多く、席の前後で音や声の時差もありますし、手こずる場面もありました。

岡野さん：ポレロのソロパートが決まっていなかった場所があって、練習の直前に楽団の方が学生に「吹いてみたら？」と声をかける場面がありました。声をかけられた学生もすごく驚いていたんですが、緊張を感じさせない素晴らしいソロ演奏をやり遂げました。東京交響楽団の方には、初対面のときからフランクに話しかけていただき、打ち解けた雰囲気でも練習することができました。



当日のホールの風景はどのように映りましたか

及川さん：ミュゼでの演奏は初めてでしたが、とても壮大で圧倒されました。達成感のある演奏になりました。

岡野さん：前には満員のお客さん、自分の後ろにも合唱団がいるという、いつもとは違うとても壮大な景色が見られました。

荒井さん：合唱団の皆さんが身に着けていた三原色のバンダナがかわいかったです。あと、多くの方が会場に来られていたので、「知っている人がいないかな」と思わず会場を見渡していました。



「音楽のまち・かわさき」が始まって20年。街中には音楽が溢れ、市民の中にも音楽を楽しむ気持ちが大きく育っています。今回の記念演奏は川崎市が掲げる「多様性」を体現する特別なステージとなりました。

本番を終えてみての感想は

荒井さん：練習やリハーサルよりも、本番が一番よくできました。市民オーケストラの一員として、練習の成果を発揮することができたと思っています。

岡野さん：演奏を終えて客席を見ると、笑顔で大きな拍手をしてくださる方がたくさんいらっしゃって、とても和やかな気持ちになりました。自分もこの100周年という記念の節目をお祝いできたことがとてもうれしかったです。

及川さん：リハーサルでは遅れてしまうこともありましたが、本番はなんとか決めることができました。本番前には東京交響楽団の方も含めてトランペットパートのみんなで食事をすることもありました。また、昭和音大の方と連絡先を交換したり交流したりできたので、本当に素敵な機会だったなと思っています。

桐原さん：当日は皆さんテンションも集中力も高く、素晴らしい演奏を披露してくれました。リハーサルではうまくいかなかったこともありますが、本番に向けて調整を重ねてきたことが必然の結果につながったのだと思います。

中山さん：合唱団は歌い慣れている方も、まったくの初めての方もいましたが、練習を重ねるうちに自信をつけて本番に臨むことができたように感じます。当日は総勢520人が一体となり、本番の楽しさを感じながら合唱できたと思います。また、記念演奏後には、初めて合唱を始めたメンバーの中に「これからも合唱を続けたい」と言うてくださった方がおり、合唱文化の今後につながるうれしい反応がありました。

記念演奏に参加されてみて、得たものは

及川さん：今回をきっかけにつながりも増えたり、市民の皆さんが音楽に関心があると感じました。今後もほかの団体や学校の方と関われる機会があれば、ぜひ参加したいです。

岡野さん：今まで洗足学園の方とは関わりがありませんでしたが、この機会に交流を深めることができました。リハーサルと当日の2日間で、人間関係が大きく広がりました。川崎にある音大同士、再び一緒に演奏する機会が持てたらいいなと思います。川崎市は音楽・芸術を応援してくれている存在。これからも発展していくことを楽しみにしています。

荒井さん：ほかのオーケストラの方とはなかなか交流することが少ないので、いい機会になりました。またこういった機会があったら出演したいです。

桐原さん：市内でも「多様性」をキーワードにさまざまなプロジェクトが企画されていますが、今回の記念演奏は、まさにそれを象徴するプログラムになったと思います。さまざまな制約がある中で、ありとあらゆる人にステージに参加してもらうのはとても難しいことでしたが、皆さんの持ち味をいかすことができましたし、これからも、もっともっとできることがあると手ごたえを感じています。参加者同士でつながりができたり、音楽を続けたいという声が聞けたりしたことはとてもうれしいです。また、市職員の皆さんの熱量が高く、「一緒にいいものをつくっていく」という思いが感じられ、とても心強かったです。音楽の力で川崎市がますます発展していくことを期待しています。

～“川崎はすごい!” “最高に楽しかった!”という体験と記憶を残した祝賀イベント～

かわさき飛躍祭

2024年6月29日[土]
等々力緑地一帯



前日の雨天から一転、束の間の梅雨の晴れ間のもとで、「かわさき飛躍祭」は開催されました。等々力球場での川崎ゆかりのアーティストによる音楽フェス「かわさき100フェス」、スポーツ体験や食のにぎわいイベント「アッと等々力フェス」、Uvanceとどろきスタジアム by Fujitsuでの「川崎フロンターレ市制100周年記念試合」に航空自衛隊ブルーインパルスの展示飛行が花を添え、一帯は18万人の人出でにぎわいました。

かわさき飛躍祭記者発表会(2024年2月20日)



かわさき100フェス

@等々力球場

等々力球場を初めて音楽フェス会場とした「かわさき100フェス」では、詰めかけた9,000人の観客の歓声と、SHISHAMO、sumika、トゲナシトゲアリなど川崎ゆかりのアーティストの演奏で市制100周年をお祝いしました。

sumika

トップバッターのsumikaは、川崎話のMCも織り交ぜながら9曲を披露。演奏後には、川崎プレイブサンダースの3選手から花束が贈られました。



SHISHAMO

最初の楽曲「明日も」演奏中に、ブルーインパルスが会场上空を飛行! 赤・緑・青の3色テープも空を舞い、会場は最高潮の盛り上がりとなりました。



僕らのホームタウン川崎で音楽フェスができたらどんなに嬉しいかと10数年思い続けていた中での等々力球場の初フェス。フェスが始まってからずっと夢みたいな時間でした。100年後に聞いても良いと思ってもらえるような音楽を残していきたいです!



トゲナシトゲアリ

川崎市を舞台にした「ガールズバンドクライ」の熱量を持ったまま、この大きなステージで初めての野外フェスができて、すごい幸せでした!



洗足学園音楽大学「フロントールズ」×川崎市消防音楽隊

sumika
Lovers
Starting Over
ふつつのじゅもん
雨天決行
MAGIC
イコール
マイリッチサマーブルース
「伝言歌」
運命

トゲナシトゲアリ
名もなき何もかも
偏つき偏つけ痛くて辛い
空の箱
誰にもなれない私だから
声なき魚
雑踏、僕らの街

洗足学園音楽大学
「フロントールズ」×
川崎市消防音楽隊
好きです かわさき 愛の街
ジャパニーズ・グラフィティII
YOUNG MAN (Y.M.C.A.)

SHISHAMO
明日も
君と夏フェス
私のままで
ハッピーエンド
夏恋注意報
最高速度

SHISHAMO×
常田真太郎
(スキマスイッチ)
天才の種

「かわさき100フェス」全セットリスト

川崎で生まれ育ち、一度しかない100周年に音楽で携われたことは一生の思い出です! これからも音楽の力で川崎を盛り上げていきたいです!

かわさき100フェス担当者
ユニバーサルミュージック 福島 優さん



@/at

アッと等々力フェス

@等々力緑地内各所

「スポーツ」



山下千絵選手の「パラアスリートと走ろう」

富士通レッドウェーブの「バスケットボール教室」



「食」



川崎ゆかりの飲食店が多数出店

川崎産のお米を使用した100周年デザイン巨大バエリア



かわさき飛躍祭

100年に1度の経験、正直大変でしたが、素敵な仲間たちと一緒にだったのでやり切れました! 200周年も盛り上げます(笑)
アッと等々力フェス責任者 川崎とどろきパーク 林 宣彰さん



川崎フロンターレ 川崎市市制100周年記念試合

@Uvanceとどろきスタジアム by Fujitsu

試合開始前やハーフタイムのイベントで市制100周年をお祝いしました。選手たちは試合で熱い戦いを見せてくれました。

スペシャルステージ



航空自衛隊飛行隊長×中村憲剛FRO トークショー



マスコット撮影会

KADOKAWA DREAMS パフォーマンス



川崎フロンターレ vs サンフレッチェ広島戦



この試合、川崎フロンターレは、マルシーニョ選手のゴールで先制をしましたが、終盤に得点を許し、市制100周年の市制記念試合は、1対1のドローとなりました。

始球式&Y.M.C.A ハーフタイムショー



始球式を行ったのは川崎市出身の俳優市原隼人さん。ハーフタイムには、100フェスから駆け付けたSHISHAMO、トゲナシトゲアリなど川崎ゆかりの総勢280人によるY.M.C.Aハーフタイムショーでスタジアムを1周しました。



市制100周年記念試合を担当でき、ファンサポーターの熱気もすごく、フロンターレとして、まちと共に歩む喜びを再認識した一日となりました!
市制100周年記念試合担当者
川崎フロンターレ 小笹 裕介さん

企画・運営メンバーが振り返る「かわさき飛躍祭」

イベントオーガナイザー 天野 春果さん

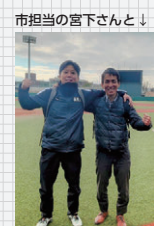


開催日は梅雨のど真ん中の6月29日。市制記念日が7月1日なので、この日しかないと感じて臨んだけど、天気予報に一喜一憂の毎日、前日は大雨、当日も開始直前で雨が降り、さすがにヒヤヒヤしましたね。でも晴れて良かった。かわさき飛躍祭は、音楽・スポーツなどの川崎のポテンシャルを掛け合わせて、そこにブルーインパルスが飛ぶという、これまでにない記憶に残るイベントに仕立てました。

SHISHAMOの代表曲「明日も」の間奏に合わせてブルーインパルスが球場の真上を飛び演出は、来場者へのサプライズでした。ブルーインパルスは1秒で200m進むので、こちらのリクエストに応えるには「コンマ何秒」の調整が必要で、「やりましょう」と応じてくれた航空自衛隊の方々には本当に感謝しかありません。演出がうまくいったとき、市の担当の

宮下さんと泣いて抱き合いました。この瞬間のために頑張ってきたので、何度も何度もガッツポーズしました。市の小池さん、金井さん、宮下さんは、イベントに向けて濃密に過ごした同志です。後で報道の映像などを見てみると、多摩川土手から、小杉から、まちの駐車場から、市内のいろいろな場所でたくさんの市民が飛行を見上げていて、暗いニュースで下を向きがちな世の中に、空を見上げさせるブルーインパルスの力を感じました。

飛躍祭は、川崎の力を結集したから成功したと思うし、何よりも川崎のみんなが喜んでくれたことが一番嬉しいです。川崎で仕事をして27年、育ててもらった川崎に少しは恩返しできたかなと思っています。これから「川崎のまちをよくしたい」という志のあるメンバーと機会があれば一緒に仕事をしたいですね。川崎フロンターレに在籍時代からたくさんのイベントに関わってきたけど、100年に一度の今回は人生で一番嬉しかったです。みんなありがとう!



実行委員会事務局 金井 直彦さん (川崎市総務企画局 シティプロモーション推進室)

構想1年半、たくさんの関係者の強みを掛け合わせた、まさに100周年を体現する「飛躍祭」でした。直前期は30人規模の全体ミーティングや、連日の個別企画の膝詰め打合せを重ね、だいたいきつかったのですが、当日等々力で楽しそうに過ごす来場者の姿を見たときは本当に嬉しかったです。またいつか等々力で飛躍祭がしたい!



航空自衛隊 ブルーインパルス 展示飛行

航空自衛隊ブルーインパルスが見事な展示飛行で、かわさき飛躍祭に花を添えました。入間基地を離陸後、麻生区、多摩区、宮前区の上空を通過し、フェス会場周辺を周回しながら華麗な演目を披露し、市内各地では、ブルーインパルスの飛行を楽しむ市民の姿が多く見られました。



ブルーインパルス 操縦席 360度映像!



川崎市市制100周年記念「かわさき飛躍祭」に航空自衛隊ブルーインパルスを招待いただきありがとうございます。川崎の記念すべき日と一緒に祝うことができて嬉しく思います。
ブルーインパルス飛行隊長 2等空佐 江尻 卓さん



川崎から「まち」と「社会」の未来を考え、広げる2日間！

COLORS, FUTURE! SUMMIT 2024 KAWASAKI

2024年11月2[土]・3日[日]

会場：川崎市役所本庁舎2F ホール／UNI COFFEE ROASTERY 川崎市役所／ラゾーナ川崎プラザ ルーファ広場

新しい100年のはじめに、川崎を起点に「まち」と「社会」の未来を考え、広げていくプロジェクト「Colors,Future!Summit」は産官学の連携による、未来をつくる新しいアクションを構想するカンファレンスとそのアクションを実験・体験するフェスティバルを組み合わせたイベント。川崎のポテンシャルや魅力を掛け合わせ、生まれた新たなアイデアや出会いが川崎の次なる100年のまちづくりにつながることを目指した2日間のイベントには、全会場合計で約2万3千人が来場しました。

カンファレンス

川崎にゆかりのある著名人や専門家、大学生など年齢もジャンルも多彩な総勢69名に登壇いただき、まちづくり、女性の働き方、フードロス、STEAM教育、LGBTQなどの社会的分野から、コーヒーや音楽といった趣味の分野にわたる14のテーマでトークセッションを展開。川崎のポテンシャルや魅力を知ってもらい、これからの川崎の未来について語り合いました。

川崎市役所本庁舎 2Fホール



川崎だからこそできる、101年目からの「チャレンジが広がるまち」を探り、多様で多彩なまちの未来を構想しました。

UNI COFFEE ROASTERY 川崎市役所



カフェの柔らかな雰囲気の中で登壇者と来場者が近い距離で対話しながら、幅広い年齢層が参加できるセッションを展開しました。

ラゾーナ川崎プラザ ルーファ広場



普段の買い物で訪れる場所にカンファレンス会場を設け、オープンな空間で気軽に参加できるセッションを開催しました。

プレ開催！「Colors,Future!Summit 2023」



前年の2023年にプレ開催した「Colors,Future!Summit 2023」では、市役所、昭和音楽大学、SUPERNOVA KAWASAKIの3会場を舞台に、全19セッションを展開しました。

登壇者からひと言！



ホテル緑道
吉岡明治さん

川崎の夜のにぎわいの可能性を、お話しさせていただきました。これをきっかけに登壇者同士でつながることができたので、さらなる取組に発展させていきたいです。

フェスティバル

『“おいしい”の未来』をコンセプトに「ちょっと先の未来ではスタンダードになっているかもしれない食」と題して総勢15ブースが集結！「スマートドリンク＝スマドリ」ブースのほか、「ヴィーガン醤油ラーメン」や「昆虫食」など、普段はあまり味わえない食の多様性が体験できるフェスティバルを展開しました。



『“おいしい”の未来』 食の多様性を体験！

ラゾーナ川崎プラザ
ルーファ広場にて

「今は“未完”だけど、もしかしたら次の文化になっているかもしれないアーティスト」と題した、「音楽のまち・かわさき」ならではのライブステージで会場を盛り上げました。



人を笑顔にするトランペッター 田尻大喜さん
ヘッドパーカッションパーフォーマー BOZE STYLEさん
洗足学園音楽大学学生による サックス8重奏

コラボ商品も販売！

アサヒビールブースでは、川崎市内の音楽大学に通う学生とノンアル・微アルのオリジナルカクテルを開発し、お酒を飲む人も、飲まない人も、同じ場で一緒に楽しみました！



「UNI COFFEE ROASTERY 川崎市役所 (株式会社GRACE)」が中心となり、3つの新商品を開発！市制100周年をきっかけに誕生したコラボ新商品は、いずれもイベント当日に完売。掛け合わせで新しい価値を生み出す取組そのものを食べて感じていただきました。

Colors,Future! Burger

卵を使わないマヨネーズやプラントベースのお肉などを使用した菜食主義者の方でも食べられる、グリル感あふれるハンバーガー。



もちもちとした食感が特徴の久寿餅と生ドーナツのコラボ！

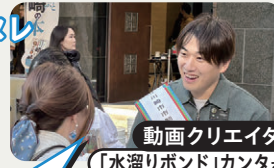
Colors,Future!Summitをきっかけに、これまで交流のなかった企業とコラボすることができました。技術の掛け合わせや企業同士のつながりを今後も大切にしていきたいです！



株式会社GRACE
鎌田将平さん

ハーガーカヌレくんのカヌレ

UNI COFFEE ROASTERYのカヌレにカンタさん自ら水色のチョコをコーティングし、イラストデコレーションを描いた一品。



動画クリエイター
「水溜りボンド」カンタさん

当日、自ら販売することができてよかったです！これからもいろいろな形で川崎に関わっていただきたいと思います！

登壇者インタビュー 「青春の思い出の地『川崎』の未来を願って」 2年連続でカンファレンスのセッションに登壇した人気モデル・藤井サチさんに、 Colors,Future!Summitについて振り返ってもらいました。

一出身は都内とのことですが、川崎市との接点はあったのですか。青春の思い出の地です。友だちとの待ち合わせ場所はいつも学校の沿線の新百合ヶ丘駅でした。プリクラを撮ったり、タピオカを食べながらおしゃべりしたり、楽しい思い出しかありません。ー2024年はカフェの雰囲気を楽しみながらの開催となりましたが、どんな雰囲気でしたか。

プレ開催の「Colors,Future!Summit 2023」では、アートに造詣の深い登壇者とともに市民の方も交えアートについて対話しましたが、2024年は医師や元プロバスケット選手の方々と登壇し、女性のライフスタイルやフェムケアの未来について、女子学生限定セッションとして語り合いました。最近、SNSのダイレクトメールで「痩せるコツを教えてください」と聞かれることが多いのですが、過剰に追い込んでしまった自分自身の経験から、参加してくれた女子中高生にも「自分らしさを大切にしてほしい」とアドバイス

しました。当日の会場ではメモを一生懸命取っている女の子の姿がとても印象に残っています。自分が学生だった時には、家族以外に大人の女性のリアルな話を聞く機会がなかったので、ちょっぴり羨ましいとも思いました。ー最後に、これからの100年に向けて、川崎市へのメッセージをお願いします。

川崎市は他都市に比べて女性のサポート体制が充実していると感じるので、さらに成長していきたいと思います。また、「Colors,Future!Summit」への登壇を通じて、アートにも力を入れていることも分かりました。私は映画が大好きなんです、川崎の文化がこれまで以上に発展し、国際的に発信できる都市になることを願っています。今後も青春の思い出の地「川崎」に関わって、その魅力を皆さんにお伝えしていきたいです！



「フェス&カンファレンス 製作委員会」座談会

新しいアクションを構想するカンファレンスと
フェスティバルから未来をつくる
—未来の川崎がここからはじまる—

「Colors,Future!Summit 2024」を企画運営した「フェス&カンファレンス 製作委員会」は、それぞれの強みを持つバラエティあふれる6社と100周年実行委員会で構成されるチームです。2回目の開催となった2024年は、「フェスティバルチーム」「カンファレンスチーム」「広報チーム」「セールスチーム」の4チームを編成し、100周年記念事業の核となる「Colors,Future!Summit 2024」の開催に全力を注ぎました。未来に向けて「あたらしい川崎」を生み出すチャレンジに取り組んだ製作委員会のメンバーに話を伺いました。

—はじめに、須之部会長にこれまでの振り返りを
お聞かせください。

須之部さん：2年間、真っさらなところから始めて、初回、2回目と回を重ねる中で内容が充実したと感じており、集客数も満足のいくものとなりました。100周年の今回で終わりではなく、この先の継続開催を目指して検討を進めています。今は、100周年を終えての総括というより、ステップアップのための振り返りだと思っています。製作委員会のメンバーが素晴らしく、それぞれのチームに役割を安心して任せられたので、会長として大変さは、あまり感じませんでした。



須之部為師さん 三浦宗文さん

—カンファレンスを創り上げるまでのプロセスや、
やり遂げた実感をお聞かせください。

三浦さん：Colors,Future!Summitは、川崎市のブランドメッセージ「Colors,Future!いろいろって、未来。」が意味する「多様性は可能性」を可視化・具現化するまちづくりイベントです。「多様性」を成長戦略の核に据え、イノベーションを生み出すには？という想いから、産官学民連携の組織づくりと、イノベーションの要件である「アイデア」(0→1)と「実装」(1→100)を大切にプロジェクトづくりの場を構想し、取り組んできました。川崎だからチャレンジしたい！というアントレプレナーが集う場を意識して、2024年のテーマは「はじめるを、はじめるよう！」としました。また、新しくはじめることも重要ですが、そのチャレンジがスケールし、社会の価値観を変え、大きな投資機会を創出するまでの社

会実装が最も重要になります。将来像として、そうした一連の取組をリード・フォローできるイベントのあり方を模索していきたいです。



千原史也さん 長澤健さん

千原さん：NTT東日本チームは、カンファレンスのテーマ決めや撮影・映像配信などの技術的な部分を担いました。テーマ決めでは、未来に向けて川崎市が必要としているものは何かをとにかく考えて、案は20くらいあげましたが、ほとんどがボツになりました(笑)。また、テーマのねらいを実現するための登壇者選定や、伝えたいメッセージについても繰り返し練りました。担当セッションのテーマは、結果として「子育て支援」となり、弊社としても子育て世代の活躍に重きを置いており、その辺りのメッセージも含めて伝えられたことは良かったです。

長澤さん：私は、3会場からYouTubeへの映像配信やカンファレンス動画のアーカイブ化を担当しました。会場に来られない方にイベントの盛り上がりやいかに伝えられるかと視聴者に飽きさせないアングルにはこだわりました。川崎市のような大都市の100周年事業のアーカイブ映像制作に携わることは大きなやりがい、社員のモチベーションも高かったですね。

塩沢さん：カンファレンステーマは、来場者が楽しめて、そして川崎の魅力も伝えられるよう、いろいろな角度から考えました。共創で取り組んだこのプロジェクトでは、それぞれの立場を考えた調整が本当に難しかったですが、プロジェクトをきっかけとした出会いとつながりは、非常に価値あるもの

でした。これまで、どうしても行政視点になりがちでしたが、民間企業のメンバーはビジネス視点で考えており、とても勉強になりました。「共創」してひとつの事業を創ることができたのは、それぞれのメンバーが果たした役割を掛け合わせた成果だと思っています。

—片岡副会長からも、「Colors,Future!Summit 2024」の感想をお聞かせください。

片岡さん：事業成功の指標には、集客と黒字化の達成の2つの観点がありますが、今回は両方とも達成できたと考えています。イベントの認知度を上げていくには、年数を積み重ねることも重要な要素なので、2023年から始まったこのイベントで一定の来場者数と収支を達成するのはとてもハードでした。広報面では「Colors,Future!Summit 2024」だけではなく、「みんなの川崎祭」「川崎夜市」「かわむすのおんがえし」という同時開催イベントを「秋の4大イベント 川崎愛 遊びつくす 3日間」として一体的に見せていく広報を企画しました。この一体的な広報は「Colors,Future!Summit 2024」が代表して担い、各イベントと連絡調整しながらタブロイド紙などを作り上げました。色々大変なこともありましたが、4イベントの連携でターゲット層が幅広になり、波及効果をより高めることができました。



塩沢楓さん 片岡慎之輔さん

—タブロイド紙づくりには大変苦労されたそうですが、いかがでしたか。

矢ヶ崎さん：同時開催した4つのイベントは、それぞれ規模が大きく、かつ、かなり特徴的なイベントで主催者の思いも強く、それをタブロイド紙にどうまとめていくかという点は苦労しました。また、原稿の締切が迫る中での4イベント分の進捗管理にも骨が折れました。

荻本さん：4イベントを表現するキャッチコピーを考えるだけでも関係者全員に案を出してもらい決定するまで1カ月以上かけて議論しました。それぞれの主催者の思いを汲み取り、ひとつにまとめて発信していく作業の難易度は相当高かったです。

また、キービジュアルは未来を感じられるデザインとなるよう、イラストレーターの選考にもこだわりました。このタブロイド紙には全ページ、テキストの1文字までこだわり抜いた思いが詰まっています。



矢ヶ崎翔子さん 荻本直輝さん

—協賛(スポンサー) セールスの手応えをお聞かせください。

佐藤さん：2023年の開催から協賛いただいていた企業に引き続き協賛していただけたのが大きかったですね。また、今回からJTBとTopKnock、フロンティアダイレクトの3社がタッグを組み、それぞれのアセットを活用したセールスも効果的でした。

小林さん：市内には、すでに100周年記念事業に協賛している企業が多かったので、市外企業にもお声がけしました。「Colors,Future!Summit 2024」の思いが多くの方に伝わり、市外企業からも協賛を得られたことは大きかったですし、川崎市の100周年を広く市外に認知してもらうことにもつながったと思います。ラゾーナで開催したフェスティバル会場にはたくさんの方が来場し、協賛価値に大変満足したとの声も協賛企業からいただきました。

—「食」をテーマにしたフェスティバルの成果をお聞かせください。

野尻さん：テーマが決まるまでは相当苦労しましたが、テーマが「食」に決まってからは、あらゆることが一気に動き出しました。コンセプトを「未来を感じさせる食」としていたため、ヴィーガンや大豆ミ-

ト、宇宙食といった少し先の未来の食を扱う企業をピックアップし、声がけしました。その中で、卵を使わないマヨネーズを扱う事業者、プラントベースのお肉を扱う事業者、カフェ事業者の3社を掛け合わせて未来を感じるハンバーガーを開発することができました。100周年記念事業は「共創」がテーマですので、これを実現できた意義は大きかったと思います。また、2つの音楽大学が川崎にある特性を活かして「音楽」と「飲み物」を掛け合わせたカクテルメニューを考案したのも楽しかったですね。

—秀逸な会場設営・会場運営だったとお聞きしました。

大河原さん：各チームが企画制作したコンテンツを、当日の会場で実体化するのが私たち会場設営部隊です。夏過ぎからようやくイベントの全体像が見えてきて、ものごとが動き出してきました。2024年は、できることはすべてやりつくしたという満足感があります。イベント当日、雨が降り続く屋外会場でも、綿密なシミュレーションに基づいて実施を判断し、多くの方に用意してきたコンテンツを提供できたことは本当に良かったです。他イベントとの当日の運営上の連携は、次回開催では、より一層効果的なものにしていきたいと思っています。

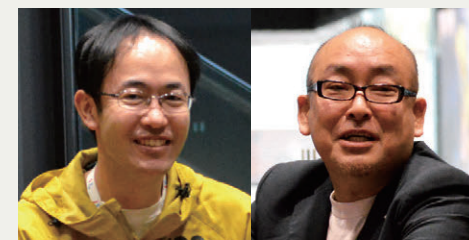


佐藤達郎さん 小林英人さん

—最後に、川崎市の荻本さん、副会長の片岡さん、
会長の須之部さんから一言ずつお願いします。

荻本さん：業種も得意な分野も多種多様なメンバーが強い思いを持って集まりながら、チームのためにできることに精一杯取り組んできました。どんなことでも自分事として、一緒に考えてくれたこと

が大きかったです。例えば「こんなことができればいいね、やりたいね」という発想を投げかけたときに、全員が「どうしたらできる?」「やってみましょう!」と言ってくれるメンバーでした。市だけではできないことも、プロが集まったこの良いチームだから実現できたと思います。



野尻浩之さん 大河原正行さん

片岡さん：製作委員会に、年齢も職業も住んでいるところもバラバラな人たちが集まり、そこで一つのものを作る「共創」の形ができました。これだけの企業、人数が集まるとうまく噛み合わないケースも多いですが、力を生かせる場をつくり、それぞれが決まった枠の中で自由に動ける力を研ぎ澄ませ、みんなの力がうまく掛け合わさったのだと思います。この「共創」の形を100周年以降も、継続・発展させていくことが、川崎のよりよい未来につながっていくのだと思います。これから川崎がどう発展していくのかがとても楽しみです。

須之部さん：アクションを構想するカンファレンスイベントが世の中に少ない中で、100周年の川崎から未来に向けた発信をしたことはとても強いメッセージになると思いました。カンファレンスを軸に、川崎から日本に留まらず、世界に向けた発信ができるのではないかと思います。川崎のまちも、こうしたイベントをキーにいろいろなアクションを連動させる流れになっていけば、すごく面白いのではないのでしょうか。製作委員会の運営に関しては、主体性あるメンバーたちにほとんどを任せました。とにかくメンバーの動きやすさを一番考えることに力を入れ、皆さんには持てる力を出し切ってもらえたと思っています。

座談会参加者

株式会社ホリプロ：
須之部為師さん(製作委員会会長)、
大河原正行さん
株式会社TopKnock：
片岡慎之輔さん(製作委員会副会長)
東日本電信電話株式会社 神奈川事業部 (NTT東日本)：
千原史也さん、長澤健さん
株式会社EVERY DAY IS THE DAY：
三浦宗文さん
株式会社フロンティアダイレクト：
小林英人さん、矢ヶ崎翔子さん
株式会社JTB 川崎支店：
佐藤達郎さん
**川崎市市制100周年記念事業・
全国都市緑化かわさきフェア
実行委員会(川崎市)**：
荻本直輝さん、塩沢楓さん、
野尻浩之さん

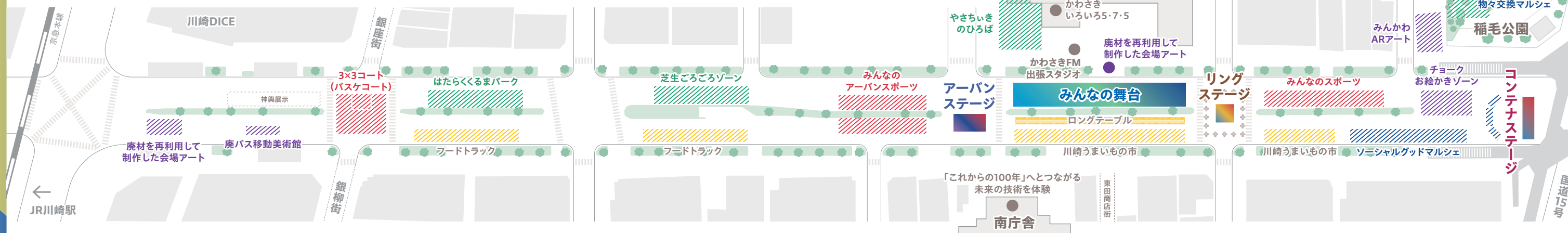


みんなの川崎祭

2024年
11月3日[日]
●市役所通り会場
●川崎市役所本庁舎・南庁舎
●稲毛公園
●ラゾーナ川崎プラザ・ルーファ広場

「みんなの川崎祭」は、道路などの公共空間を活用して、にぎわいを創出する市制100周年のチャレンジ。将来的な公共空間の効果的・持続的活用を目指して実施しました。
市役所通りの片側3車線を歩行者空間とした2023年のプレ開催から、市制100周年の本番は規模を拡大! 市役所通りの両側6車線約500mを歩行者空間とし、川崎で活躍するプレイヤーによる音楽・スポーツのステージや体験、飲食スペース、サステナブルな取組やアート展示など、川崎の魅力をあふれんばかりに詰め込み、約11万人が来場。多くの方に川崎を「知って、関わって、好きになっていただく」1日となりました。

市役所周辺の公共空間を活用し川崎の魅力を集結



道路でプロレス!? 交差点の真ん中に設置した「リングステージ」

市役所本庁舎前の交差点にリングを設置! プロレスの試合や音楽ライブで観客を魅了しました。

プロレス団体
HEAT-UPさん



出演者からひと言!
市役所通りの真ん中でプロレスの試合を披露しました! いつもより高く飛んでる!? 観客の皆さまからも熱い声援を数多くいただきました!

トラックがおしゃれなステージに変身した「コンテナステージ」

ステージでは音楽ライブや和太鼓、チアダンスなど、川崎で活躍するグループが多彩なパフォーマンスを披露しました。



そのほかにも いろいろなコンテンツが♪

会場に出張したかわさきFMのラジオスタジオから、イベントの様子を実況生中継しました。



美味しい食事をみんなで楽しむ「50mロングテーブル」。キッチンカーも多数出展♪



川崎が誇るアーバンスポーツを披露した「アーバンステージ」

ブレイキン、ダブルダッチなど、川崎の若者文化を代表する大迫力のパフォーマンスが披露され、多くの観客を沸かせました。

出演者からひと言!



たくさんの方々にブレイキンを体験していただき光栄でした!



ブレイキン
GOOD FOOTさん

たくさん子どもたちが盛り上げてくれてうれしかったです!

車いすダンサー
かんばらけんたさん



みんなが主役の「みんなの舞台」

歌好き、演奏好きが集まった「みんなのセッション」は、事前練習なしの一度限りの舞台。川崎ゆかりの名曲を素敵な音色で奏でました。



捨てられてしまう服を再利用した衣装を身にまとい、道路上のランウェイを歩いた「ソーシャルグッドファッションショー」。福田市長をはじめ、川崎にゆかりのあるパフォーマーがモデルとして登場しました。

過去に感謝し、未来へ進む

bonvoyage株式会社(中原区) 代表取締役
チーフプロデューサー 和泉直人さん
千葉恵子さん

2023年にプレイベントとして初開催し、2024年には規模を拡大して開催した「みんなの川崎祭(通称:みんなかわ)」を2年連続でプロデュースしたのはbonvoyage(株)(中原区)。建築プロデュースを生かした地域コミュニティづくりを得意とし、市内で行われる多くのイベントに携わる同社の和泉さん、千葉さんに「みんなかわ」への思いを伺いました。

■「価値ある資源」をたくさんの人に届けたい

「掲げた理念は「Thank you いままでの100年、Hello これからの100年」。先人に感謝しつつ、これからの100年を見据えたイベントにしたいと考えました」と話すのは代表取締役の和泉直人さん。川崎の価値ある資源を多くの人に体験してもらい、「シビックプライド醸成につなげる」という思いを具現化させました。
12人のプロジェクトマネージャーをまとめたチーフプロデューサー・千葉恵子さんは「2回目となる2024年の開催では、より広い空間で多くの人々に楽しんでもらえ、1回目を上回る出来になりました。当日は記憶がないくらい忙しかったけど、終わってみたらすごく良いイベントになったと思います」と振り返ります。来場者アンケートでは、90%以上の方から、「今後も続けてほしい」と回答をいただきました。
公共空間を活用し、従来のイベントに付加価値をつけたプロジェクトの挑戦はこれからも続きます。





溝口駅前キラリデッキに音楽やダンスなどを「見て・感じて・楽しめる」憩いのスペースを創出

ここから未来プロジェクト

日時:2024年11月9日[土] 会場:溝口駅前キラリデッキステージ



市制100周年を迎えた2024年11月、溝口駅前キラリデッキに音楽やダンスなどを「見て・感じて・楽しめる」地域の憩いのスペースとなる「キラリデッキステージ」が完成。元JUDY AND MARY(バンドグループ)の五十嵐公太さんの発案で立ち上がった「ここから未来プロジェクト推進協議会準備会」が、本ステージやイベントの企画運営を担い、11月9日(土)には、市制100周年とステージの完成を祝うこけら落としイベントを開催しました。



ここから未来プロジェクト公式HP



完成したステージは木の温もりが感じられる木製のステージ。音楽ライブなどのイベントを開催するほか、普段の日は、ダンス・音楽の練習、文化芸術の発信、座ってひなたぼっこができる憩いの場など、利用のしかたは多種多様。地元の方々に親しまれる、新たな溝口のランドマークとなることを目指しています。

ステージでは
さまざまなイベントが
開催されています！

11月9日のこけら落としイベントでは、五十嵐さん、高橋高津区長、青木川崎市議会議員、大島高津全町内会連合会会長によるテープカットに続き、キッズダンスチームや洗足学園音楽大学の学生による音楽ステージなど、地元ゆかりのある14組の出演者がオープニングを飾りました。出演者の皆さんからは「開放的なステージで歌ったり、踊ったりできて気持ち良かった」、「たくさんの方に見てもらえて楽しかった」などの声をいただきました。



市制100周年の記念すべき節目に設置したキラリデッキステージは、多くの方の協力があって完成した「みんなのステージ」です。プロもアマチュアも関係なく、多くの方に楽しいやドキドキをこのステージで体験して欲しいと思っています。溝口駅前キラリデッキから始まる新しいチャレンジ。皆さんと一緒にこのステージが「まちへの誇りや愛着」のランドマークになるよう取り組んでいきます。応援よろしくお願いします！

ここから未来プロジェクト推進協議会準備会
会長 宮野知成(左) 副会長 水越大輔(右)



誰もが音楽やダンスを表現できる
温かみのある木製ステージ



一人一人が環境に良いアクションを起こす文化や新しいライフスタイルの形成を目指して

かわさき脱炭素プロジェクト

期間:2024年6月17日~8月31日

内容:宅配便ロッカー(PUDO)のラッピング、川崎ゆかりの特典が当たるキャンペーン、効果の見える化(ダッシュボード)など
実施主体:ヤマト運輸、PackcityJapan、富士通、川崎市市制100周年記念事業・全国都市緑化かわさきフェア実行委員会

「かわさき脱炭素プロジェクト」は、一人一人が自発的に環境に良いアクションを起こす文化や新しいライフスタイルの形成を目指し、100周年を機に立ち上がったプロジェクトです。

その先行的取組として、“自分らしく環境に良い宅配受け取りのライフスタイル”の普及・行動変容に向けた、オープン型宅配便ロッカー(PUDO)の利用促進により、宅配再配達を減らし、CO₂排出量の削減を目指す取組を実施しました。



主要駅構内、商業施設、区役所、ヤマト運輸営業所などの宅配便ロッカーに、再配達による地球環境問題や物流問題を楽しく知ることができるラッピングを行い、宅配便ロッカーをアピールしました。



市民が市内の宅配便ロッカーでヤマト運輸の荷物を受け取ると、川崎ゆかりの特典に応募することができるキャンペーンを行い、宅配便ロッカーの利用を促進しました。



川崎市は脱炭素戦略(かわさきカーボンゼロチャレンジ2050)のもと、「脱炭素アクションみぞのくち」や「川崎市脱炭素ライフスタイル行動変容促進プロジェクト」など、さまざまなCO₂削減の取組に挑戦しています。これからも、市民や事業者の皆さまと環境について一緒に考え、行動しながら、環境に良いアクションを行うことをより身近に感じられる事業を実施し、サステナブルな川崎市を創造していきたいと考えています。



かわさき脱炭素プロジェクト ワークショップに参加したメンバー



全国都市緑化かわさきフェアの開催を契機とした「みどりでつながるコミュニティ」の創造

みどりの共創プロジェクト

実施団体 midori-ba (百暮、NPO法人あかね、かわさき生活クラブ、ワイエムビー、Den、ホリプロ、ピークスタジオ、野菜だいすきファーム、AEI)

みどりの共創プロジェクトは「みどりでつながる、暮らしやすく、住みたいまち」の実現をめざすプロジェクト。「コミュニティ×みどり」をテーマに、公園など場所を決めてみどりを育てる体験ができる「グロウガーデン」、トラックなどを使用して場所を決めずにみどりに触れる機会を創出する「トラックガーデン」などの取組を市内各所で展開しました。100周年を契機に立ち上がった団体「midori-ba」が2025年度以降も、みどりと出会う場やきっかけを提供し、人とみどり、まちをつなぐ取組を継続していきます。



グロウガーデンの取組

農体験



土づくり・植付を行った野菜の収穫・調理を通じた交流(橘公園)



サツマイモの植え付け・やさいも体験(日進町こども文化センター・大師公園)



雑草の堆肥化講習(福祉交流農園VOVO)

自然体験



どんぐりジャムづくりワークショップ(Nocuchi-Lab.)



公園にある素材でクリスマスリースづくり(橘公園)

みどりのオープンスペース体験



夜の公園でのアウトドア体験会(橘公園)



みどりあふれる憩いの場でのイベント(SUPERNOVA KAWASAKI)

トラックガーデンの取組

● ZŌEN2024

日時:2024年4月13日[土]・20日[土]
会場:em/PARK(溝口駅近くの民間駐車場)屋上
みどりをベースに映像、詩、音楽を絡めたみどりの魅力を感じる空間を演出し、普段みどりに関わる機会がない層にみどりと出会うきっかけを提供しました。



植物の美しさに気づくきっかけとなる映像体験

● midori-ba Fes

日時:2024年11月16日[土] 会場:溝口駅前キラリデッキ
日時:2025年3月22日[土]・23日[日] 会場:富士見公園

キラリデッキと緑化フェア会場で社会実験イベントを実施し、緑化意識の醸成やmidori-baの取組を紹介しました。



緑化したステージでの音楽ライブ



midori-baメンバーがプロジェクトへの思いを語ったトークセッション

● こどもたちとみどりを結ぶennouフォーラム

日時:2025年3月15日[土]
会場:総合自治会館

川崎の「みどり」を子どもたちが「知って・ふれて・食べて・元気になって」育ったまちを好きになってもらいたいという思いからフォーラムを開催。子どもと農のつながりに関する基調講演や、学校給食などをテーマにしたトークセッションを行いました。



「midori-ba」HP

これからの川崎の100年を一緒につくっていきましょう!

「Enjoy Greening -こころとまちにみどりを-」を掲げて活動する「midori-ba」では一緒にmidori-baを盛り上げてくれる仲間を募集しています。詳しくはHPをご覧ください。また、LINEでは随時、最新情報をお知らせしています。



LINEイベント情報

提案型事業

「あたらしい川崎」を生み出していく多様で多彩なアクションの提案を広く募集する「提案型事業」を実施し、柔軟なアイデアや発想から記念事業を盛り上げ、地域課題の解決、地域の魅力や価値の向上を図る取組を進めました。



武蔵小杉でママや家族が安心して楽しめる場所・機会を作りたい

まんなかフェス2024

日時:2024年9月28日[土]・29日[日]

実施団体 一般社団法人まんなかフェス

「ママと子どもたちが一緒に楽しめる遊び場、ママたちが息抜きできる場」を目指しながら、緑化フェアを意識した『花と緑』をテーマとして、市内で活躍するハンドメイドショップや飲食店を集めたマルシェ、音楽・ダンスステージを開催しました。さらに、市制100周年記念のメモリアルな機会を皆さんと一緒に祝う、武蔵小杉駅周辺で過去最大級の市民参加型の音楽パレードにチャレンジし、参加者、来場者全員にとって、忘れ得ない体験、そして川崎への自信、愛着を持てる機会を創出しました。



PICK UP!

風とリズムのパレード♪

楽器製作ワークショップに参加した市民約80人に加え、ダンスや音楽を奏でるメンバー総勢200名で約20分間のパレードを実施。多くの参加者と観覧者で市制100周年を祝いました。



手作り楽器を持ってパレード♪

【多様性】を表現する色合いと、【花とみどり】をモチーフにした衣装でパレードを盛り上げました。



主催者からひと言



平松あずさん

2日間で計101ブースの出展と26の音楽やダンスステージパフォーマンスが行われ、親と子どもたちが一緒に遊んで楽しめる空間を創出しました。

市民一体となったパレードで市制100周年をお祝いすることができました!出演者も応援する沿道の皆さんも笑顔がいっぱいでした。応援ありがとうございました。



世界こども地域合衆国サミット

子どもの力で川崎の未来を変えるプロジェクト

実施団体 田園調布学園大学ほか

子どもたちが地域の産業や文化に触れる機会を提供することで、子どもたちの主体性とリーダーシップを育成し、持続可能な社会の実現を目指す取組です。共創こども会議等を通じた準備を経て、11月にこどものまち仕事体験イベント「ミニたまゆり」と「世界こども地域合衆国サミット」が、田園調布学園大学キャンパスで開催され、多くの子どもたちでにぎわいました。参加者からは、「楽しかった」「来年も参加したい」などの声が多く聞かれました。

● こどものまち仕事体験イベントミニたまゆり

日時:2024年11月16日[土]・17日[日]

子どもたちがさまざまな仕事を体験しながら、働くことやお金の大切さ、社会のしくみを楽しみながら学びました。



● 世界こども地域合衆国サミット

日時:2024年11月17日[日]

ドイツやウクライナの子どもや全国の「こどものまち」の代表を招待し、川崎市の子どもへの取組やそれぞれの地域の取組を紹介しました。



● メタバース×リアル謎解きツアー

メタバース:2024年7月27日[土]~12月31日[火]
リアル会場:2024年7月27日[土]~ 8月31日[土]
(富士見公園、等々力緑地、生田緑地等)

川崎市の企業や文化等にちなんだ「謎解きツアー」をメタバース×リアルで開催しました。

